



CLOUD
SIGNATURE
CONSORTIUM (CSC)

昇塚淑子 |

アドビシステムズ株式会社 デジタルメディア統括 ビジネスデベロップメントマネジャー

コンソーシアムの成り立ちと目的



Building a standard for cloud signatures

A new industry consortium to pioneer
open digital signatures for mobile and the web

#OpenSignature



クラウド署名コンソーシアム: 成り立ち

- クラウド署名コンソーシアムは2016年初め、ソリューション、テクノロジー、トラストサービスプロバイダを含む業界や学术界の専門家から成る国際的な協力グループによって設立。



2015年末 キックオフ

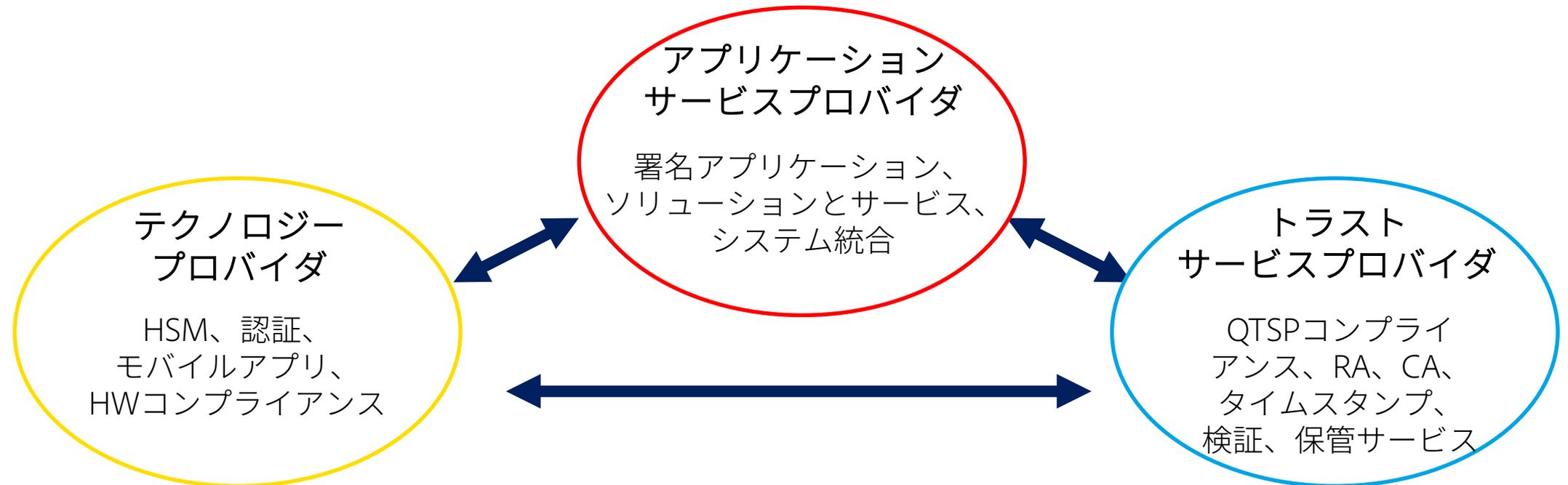
2016年7月 発足

2017年 2月
仕様のリリース

2017年 実装

クラウド署名コンソーシアム：目的

- 共通のアーキテクチャ設計と構成要素構築によって、ソリューション、テクノロジー、トラストサービスプロバイダ間の相互運用性を実現。
- サービス間の連携を相互運用可能にするべくプロトコルとAPIの技術仕様開発。
- オープンスタンダードとしてAPI仕様を公開。
- クラウド署名のコンセプトを促進。



創設メンバー

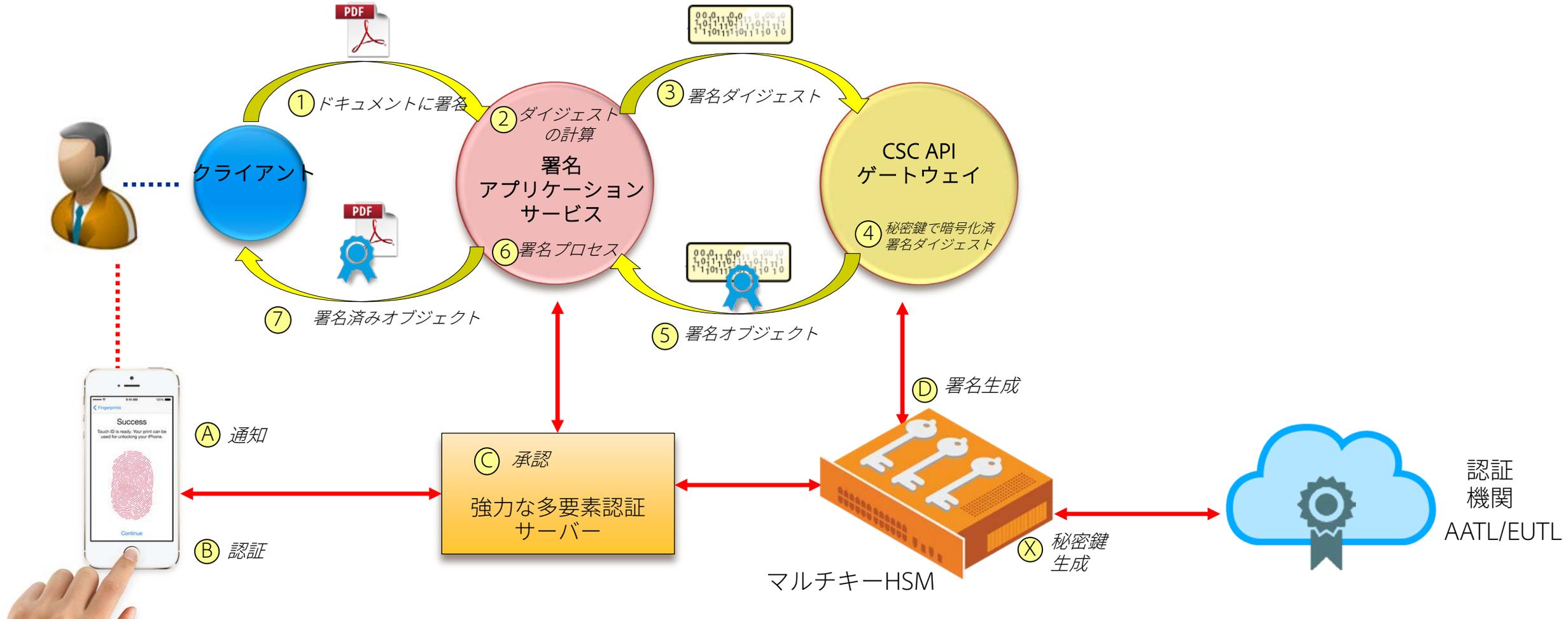
Adobe	米国
Cryptolog / Universign	フランス
Docapost / Certinomis	フランス
Intesi Group	イタリア
InfoCert	イタリア
Asseco Data Systems	ポーランド
D-Trust/Bundesdruckerei	ドイツ
Intarsys	ドイツ
Izenpe	スペイン
SafeLayer	スペイン
SwissSign	スイス
Technische Universität Graz	オーストリア
Unibridge	ノルウェー



クラウド署名シナリオ

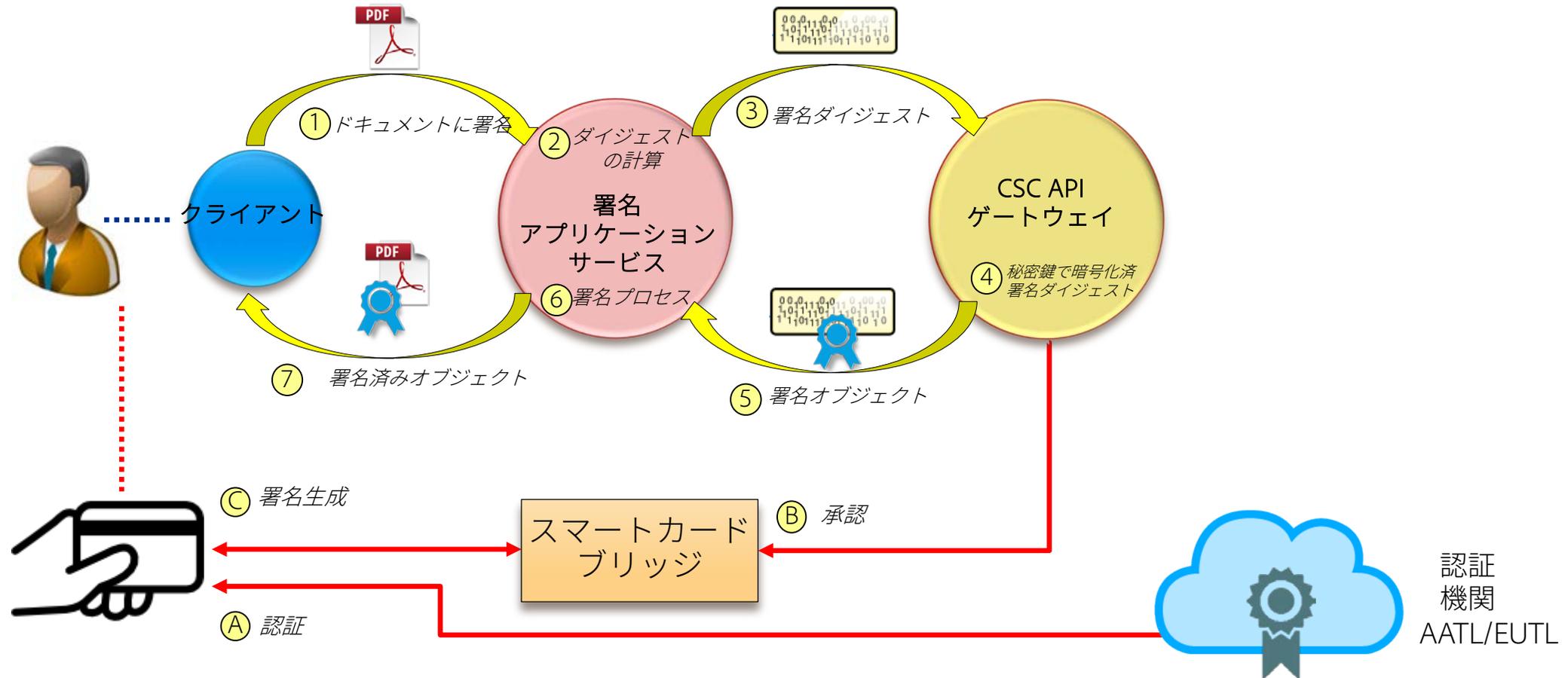
[1] HSMに複数のクレデンシアルを一元的にホスティング

- 個人向け署名デバイスをマルチユーザーHSMに置換。強力な多要素認証を通じてセキュアなアクセスを提供するもので、トラストサービスプロバイダがホスティングする。



[2] クラウド対応スマートカード

- 個人向け署名作成デバイスを、署名用のデスクトップツールではなく、クラウドベースの署名アプリケーションサービスに接続。クラウドサービスで文書のプレビューが可能になり、Webまたはモバイルユーザーインタラクションによる署名を促進。



標準規格の概要

クラウド署名コンソーシアムの技術仕様

- 現在のスコープは、リモート署名のためのアーキテクチャ、プロトコル、APIの策定。
- CEN EN 419 241と各種ETSI標準に対応。
 - EU標準化分野以外を含む広範な要件に対応することが目標。
 - 仕様はRESTプロトコルとJSONデータ交換に基づき、WebサービスAPIを定義している。最新かつ簡単な内容。
- CSCに準拠したサービスは、プロバイダーの提供機能を検出して対応。
 - プロバイダーのミッション/キャパシティに応じて、モジュール化されたサービスに選択的に対応可能。
 - サービスは必要なAPIメソッドのみに対応可能。クライアントはサポートされているAPIを簡単に検出可能。
- 広範囲かつ柔軟な認証と承認メカニズムをサポート。
 - クライアントとユーザー認証
 - 考え得るすべての実装コンテキストに対応：デスクトップとモバイルアプリ、クラウドおよびオンプレミスなど。
 - パスワードベース、OAuthベース、SAML、フェデレーション認証。
 - クレデンシャル承認メカニズム
 - 同期、非同期のOTP、OAuthベース、SAML等。
 - 複数のメカニズムを組み合わせることで多要素認証承認に対応。

標準化ロードマップ

- クラウド署名コンソーシアムの標準化ロードマップは以下のサービスに対応したプロトコルとAPIを含む。
 - クラウド署名 (リモート署名)
 - 署名の検証
 - 署名機能の拡張
 - 証明書の登録

メンバーシップの拡大

- クラウド署名コンソーシアムは、eIDAS規制の導入と同期をとり2016年6月末に正式に発足。
- 全世界のトラストサービス領域の大手企業約60社に、コンソーシアムへの参加を呼びかけ。
- 異なるプロファイルに基づく新メンバー募集をまもなく開始。

ご参加希望の方はwww.cloudsignatureconsortium.org/contactsをご覧ください。





Thank you